



株式会社日本動物高度医療センター（東証グロース：6039）

2024年3月期第2四半期 決算説明資料

2023年11月17日

事象	2023年11月15日 連結子会社テレコム株式会社が過去に輸入した一部の製品に電気用品安全法上の不備があったことが判明
不備の内容	電気用品安全法上の届出 表示内容 技術基準適合性確認 自主検査・検査記録の不備
対応策	2023年11月15日 電気用品安全法上の届出を実施 事故の発生は報告されていないが、継続的な使用のために 同法に基づく技術基準適合性の確認及び自主検査等の実施

「私たちの使命」

動物医療の「できない」をなくし、
動物とともに生きる人の希望になる。

動物医療業界のリーディングカンパニーとしてさらに加速して事業強化を図っていくため、
コーポレートアイデンティティをリニューアル。
かかりつけ医など動物医療業界のステークホルダーとひとつになって、Missionに向き合っていきます。

今後は上記Missionをもとに、事業推進・広報活動・製品開発などを行っていく

**創業時の基本理念である人材育成・臨床研究・高度医療は、
二次診療病院の3つの柱として残している**



「私たちが提供する価値」

365日、かかりつけ医のすぐそばにいる
高度医療チーム

私たちは専門性と人間味を持ち、かかりつけ医と一体感あるチームとなって、安心と納得の医療を提供しつづけます。

専門性

臨床を中心としながらも症例研究を積極的に行い、つねに技術や知識の向上に努めることでより確実性の高い医療と、幅広い選択肢を提供します。

人間味

オーナーが抱く不安や苦しみをできる限り軽減させ、ここに預けてよかったと思っただけのように、スタッフ一人ひとりが真心を込めた対応で寄り添います。

一体感

さまざまな専門性を持つ獣医師やスタッフが、かかりつけの獣医師とひとつのチームとなって連携しながら、ともに動物の命に向き合います。

今後は上記Valueをもとに、組織開発、サービス改善などを行っていく

- I 決算の概要**
- II 市場動向および中期展望**



I 決算の概要



上半期の総括

売上は前年同期比増収も利益は減少

4～6月

- 川崎本院の放射線治療を休止（最新機種に入替えのため）
- 眼科の新規患者受入れを4月に停止（6月に廃止）
- 6月1日の大阪病院開院の準備のため既存病院の一部診療スタッフの稼働が低下
- 大阪病院開院のため経費が増加（消耗品 他）

7～9月

- 7月中旬から放射線治療を再開
- 前半は既存病院の初診数が伸び悩み
- 後半から診療スタッフの増強と体制の安定により診療能力が向上、初診数は盛り返し、四半期としては**過去最高の売上**

6月1日開院した大阪病院の立ち上がりは順調

- 開院後診療数は当初想定を上回って推移
- 近畿地区を中心に連携病院数は増加
- 開院以降営業活動（一次診療施設訪問、セミナー実施等）を活発化一層の診療数増加を図り、当初12ヶ月と見ていた黒字化の前倒しを目指す

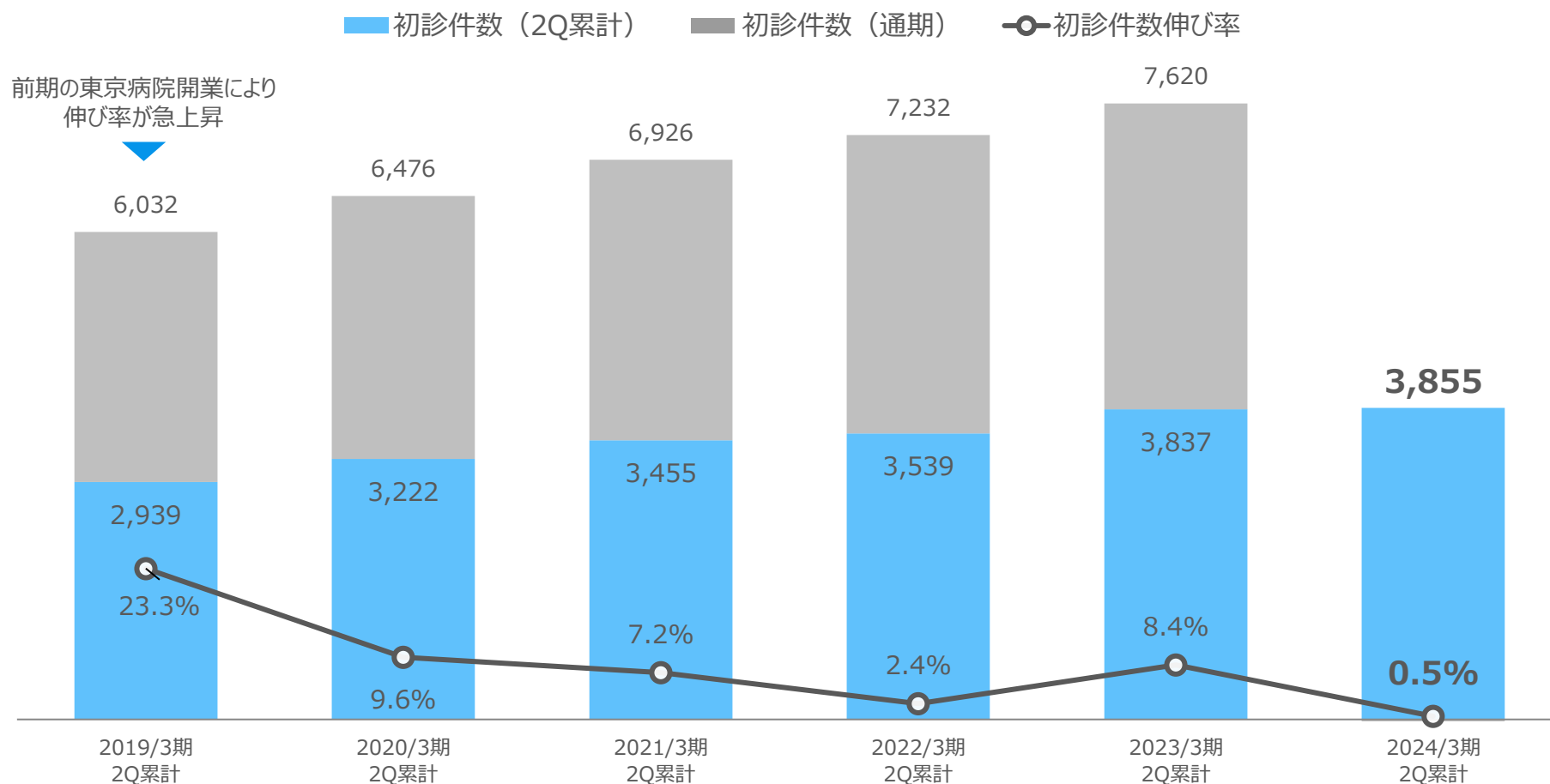
2024年3月期第2四半期 決算概要

- 症例の増加もあり売上高は増収
- 大阪病院の開院に伴う費用等が増加したことにより営業利益は減益

(百万円)	2023/3期			2024/3期				
	2Q累計実績	進捗率	通期実績	2Q累計実績	前年同期比		進捗率	通期計画
売上高	1,915	49.6%	3,872	1,982	+67	+3.5%	47.8%	4,140
二次診療サービス	1,283	49.4%	2,594	1,327	+44	+3.4%	-	-
画像診断サービス	230	48.7%	472	258	+28	+12.1%	-	-
健康管理機器レンタル・販売サービス	396	51.1%	774	392	▲4	▲1.0	-	-
売上原価	1,199	-	2,430	1,359	159	+13.2%	-	-
販売費・一般管理費	422	-	862	463	41	+9.7%	-	-
営業利益	293	54.8%	580	159	▲134	▲45.5%	28.6%	555
経常利益	295	54.8%	534	152	▲143	▲48.5%	26.9%	565
親会社株式に帰属する 四半期純利益	197	54.2%	380	97	▲100	▲50.6%	25.1%	385
1株当たり 四半期純利益	85.0円	-	156.3円	35.6円	▲49.4円	▲58.1%	-	140.5円

事業KPI：初診件数（紹介数）は過去最高

- 初診件数は減少要因があったものの終盤で盛り返し、上半期での過去最高件数を更新

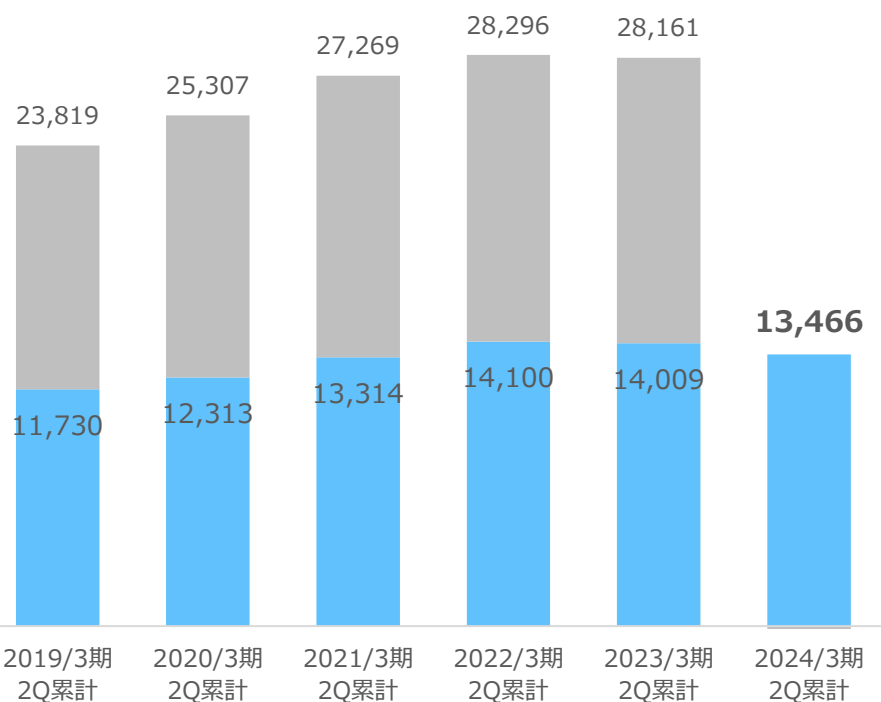


事業KPI：総診療件数、手術件数の推移

- 総診療件数は再診件数減少の影響をうける ← 再診の不要な早期受診の増加などが要因
- 手術件数は増加基調

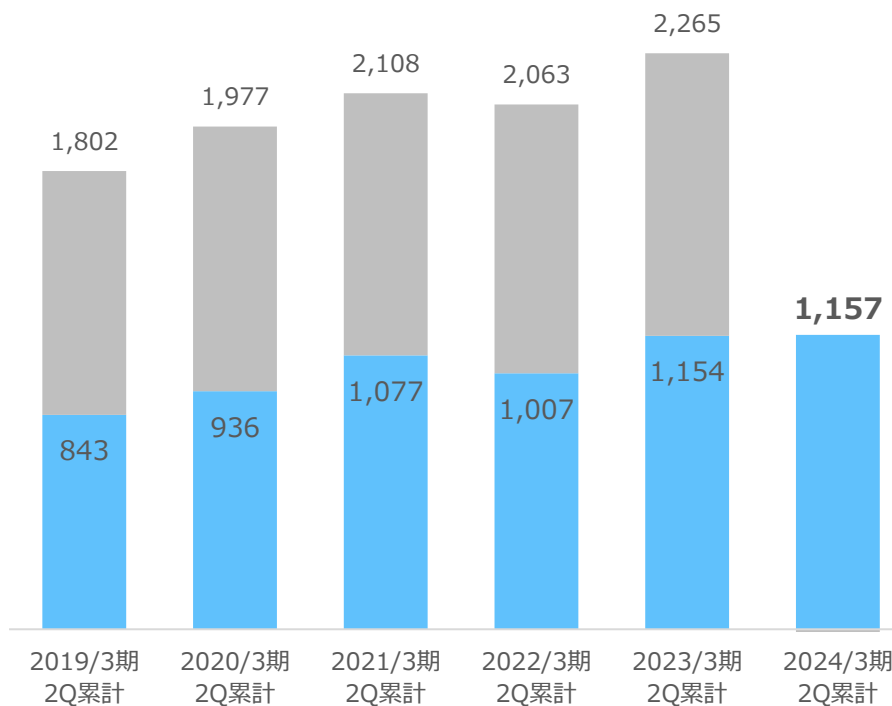
総診療件数の推移

■ 総診療件数（2Q累計） ■ 総診療件数（通期）



手術件数の推移

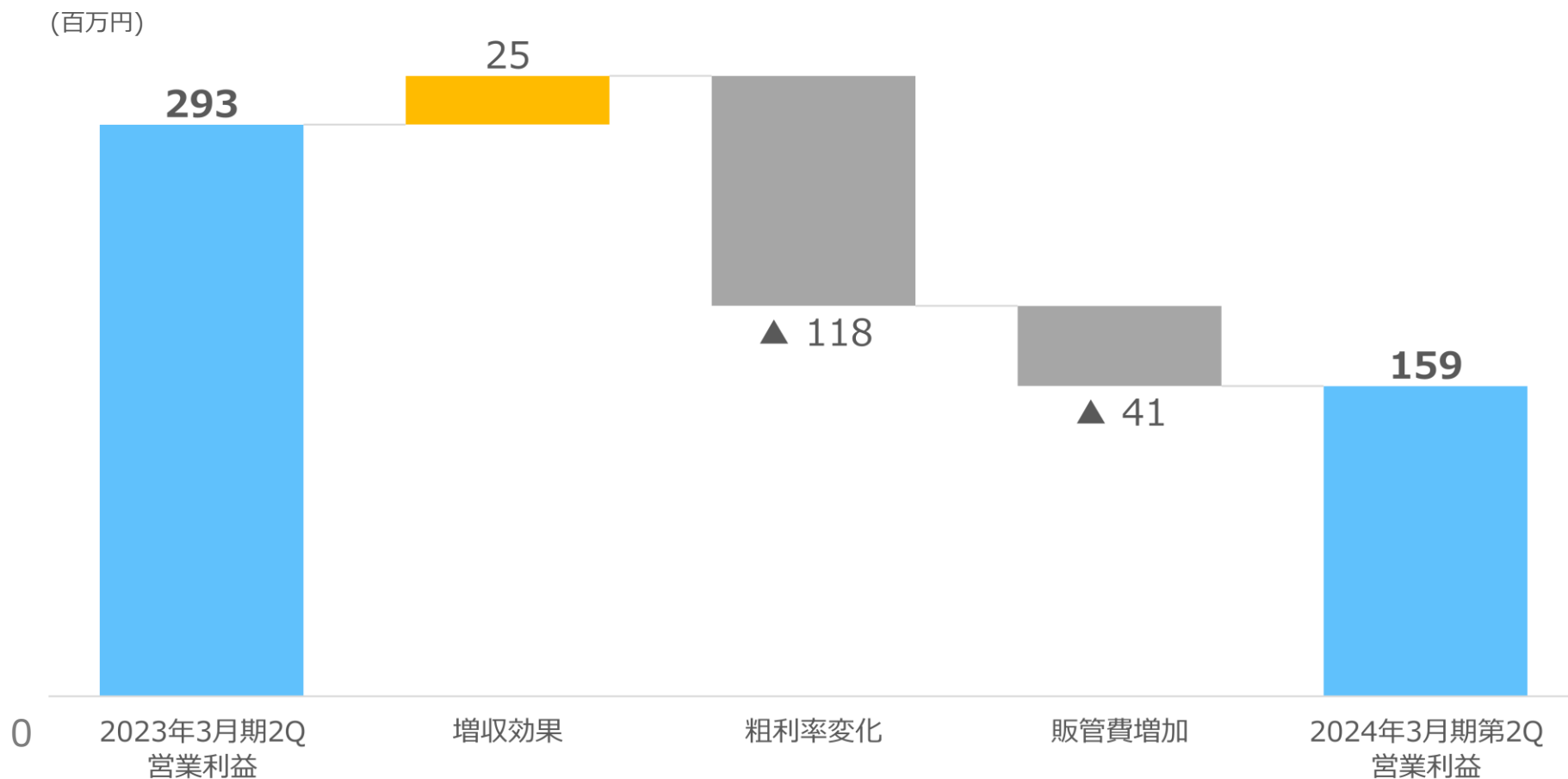
■ 手術件数（2Q累計） ■ 手術件数（通期）



注：総診療件数は初診と再診の合計数

営業利益増減要因

- 大阪病院の開院に伴う初期費用により販管費は増加



バランスシート状況

- 大阪病院開院及び川崎本院放射線治療器等の取得に伴いバランスシートは拡大
- 自己資本比率は43.2%から44.4%へ改善

(百万円)	2023/3期	2024/3期2Q	前期末比
流動資産	2,396	2,104	▲292
現預金	1,916	1,689	▲227
売掛金	263	259	▲4
商品	95	88	▲7
固定資産	6,182	6,560	+378
有形固定資産	5,333	5,706	+373
無形固定資産	608	575	▲33
総資産	8,578	8,664	+86
負債	4,872	4,816	▲56
有利子負債	3,975	4,175	+200
純資産（株主資本）	3,706	3,848	+142
自己株式	▲171	▲122	+49
負債純資産合計	8,578	8,664	+86

キャッシュフローの状況

- 営業CFは、減益に伴い前年同期比で76百万円減少

(百万円)	2023/3期 2Q累計	2024/3期 2Q累計	前年同期比	主な要因
営業CF	440	364	▲76	
税金等調整前 四半期純利益	295	153	▲142	・ 営業利益減益
減価償却費	193	204	+11	
投資CF	▲159	▲789	▲630	
有形固定資産取得	▲143	▲774	▲631	・ 大阪開院に伴う有形固定資産取得
FCF	280	▲425	▲145	
財務CF	▲197	198	+395	・ 長期借入によるもの
現金同等物の期末残高	1,052	1,589	+537	

2024年3月期の見通し

- 大阪病院開院及び既存病院の堅実な成長により売上高は増収見込み
- 開業に伴うコスト増もあり利益は横ばい

(百万円)	2023/3期		2024/3期			
	実績	構成比	通期計画	構成比	前期比	
売上高	3,872	100.0%	4,140	100.0%	+268	+6.9%
営業利益	580	15.0%	555	13.4%	▲25	▲4.4%
経常利益	534	13.8%	565	13.6%	+31	+5.8%
親会社株主帰属 当期純利益	380	9.8%	385	9.3%	+5	+1.1%

株主還元施策：初配当を実施予定

- 2024年3月期 期末配当を予想

2024年3月期 期末配当

初配当

1株当たり配当金

配当性向（予想）

期末 **20円**

14.3%

今後の利益還元策について

配当性向10～20%を基本方針

事業拡大のための投資と
資本効率向上の最適なバランスを考慮

自己株式の取得

1株当たりの株主価値と
ROEの向上を目的として機動的に実施

Ⅱ 市場動向および中期展望

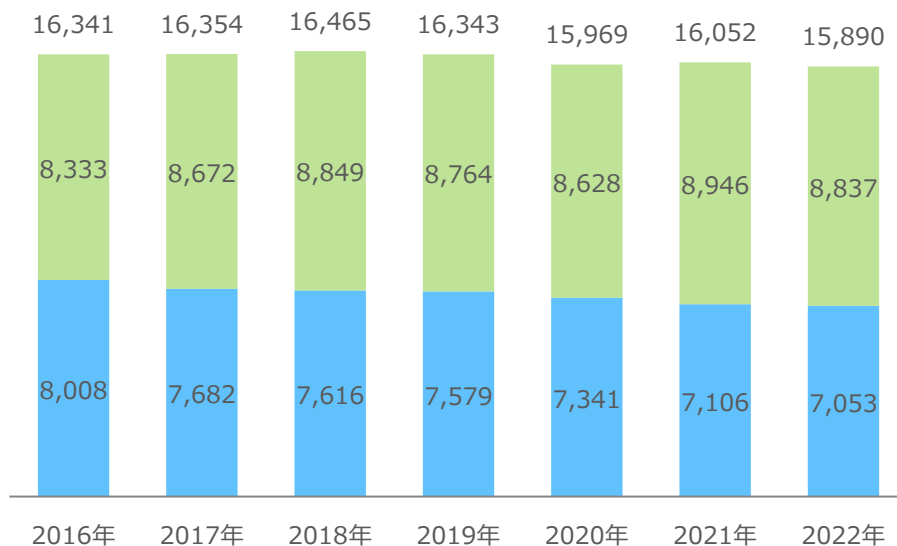


業界環境：犬猫飼育頭数は横ばい傾向が続く

- 2022年の犬猫飼育頭数は横ばいであったが、「新規犬飼育頭数」は増加

犬猫飼育頭数

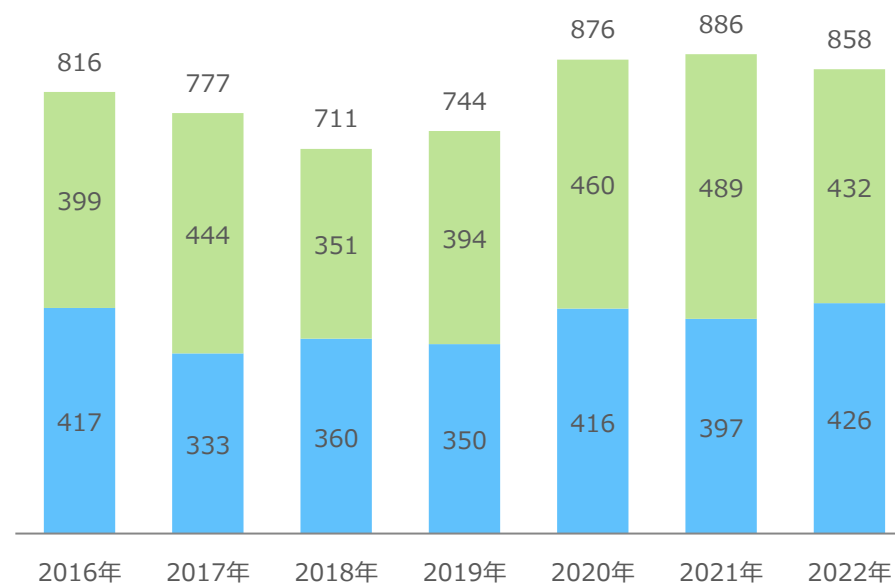
■ 犬飼育頭数 ■ 猫飼育頭数（千頭）



新規犬猫飼育頭数*

*統計、調査データ算出の1年前（1年以内も含）から飼い始めた人を新規飼育者とし、新規飼育者に飼われ始めた犬猫の頭数

■ 新規犬飼育頭数 ■ 新規猫飼育頭数（千頭）



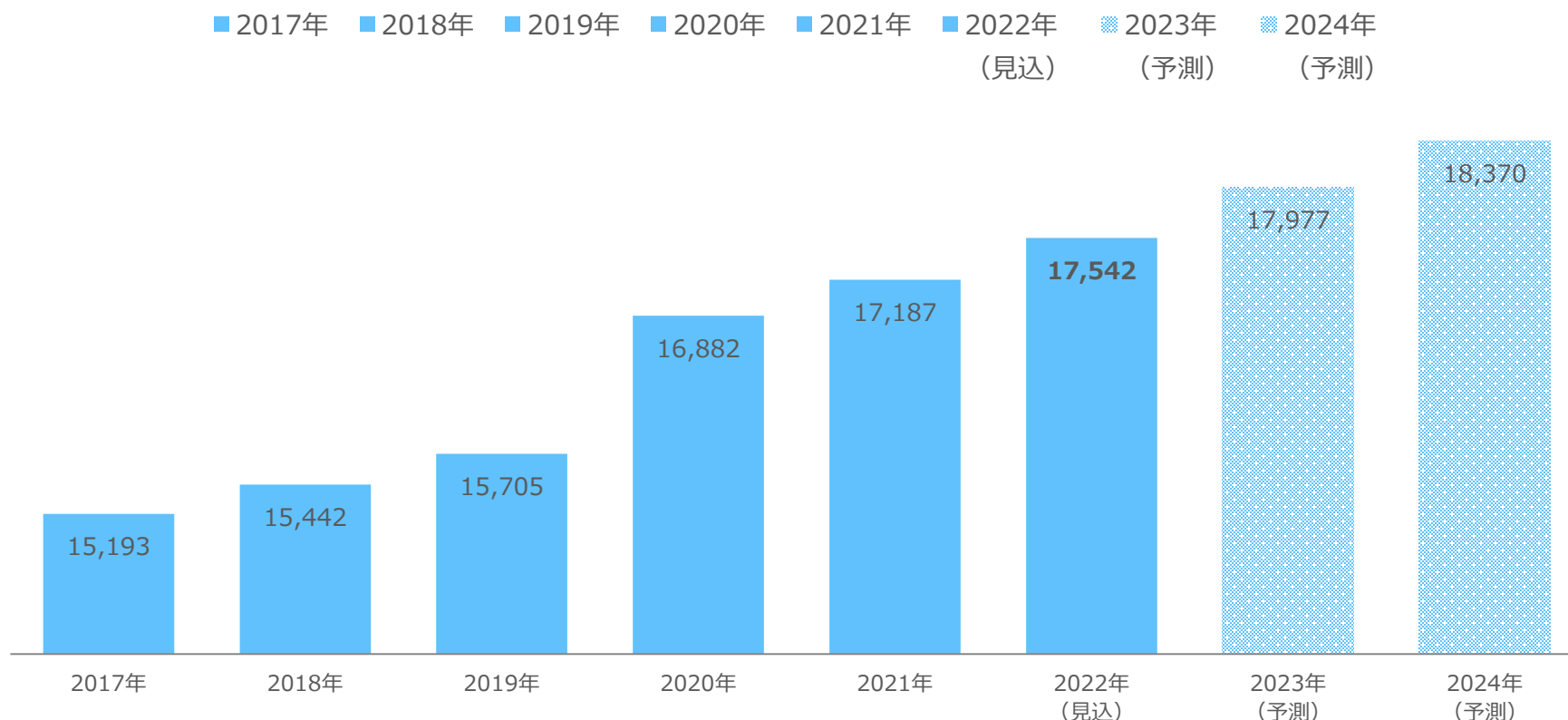
出所：ペットフード協会「令和4年 全国犬猫飼育実態調査」

順調に拡大するペット関連市場

- 人口減少や少子高齢化が懸念される一方、ペットの家族化で動物医療に対する多様化・高度化要請は増加
- ペット医療やペット保険等ペットビジネスの付加価値化、裾野が拡大し、ペット関連総市場規模は年々拡大傾向

ペット関連総市場規模*と一世帯当たり動物病院支出額

*ペット関連総市場：ペットビジネスをフード市場、用品市場、生体市場、その他（ペット周辺サービス市場）として捉えた際のペットビジネス市場全体

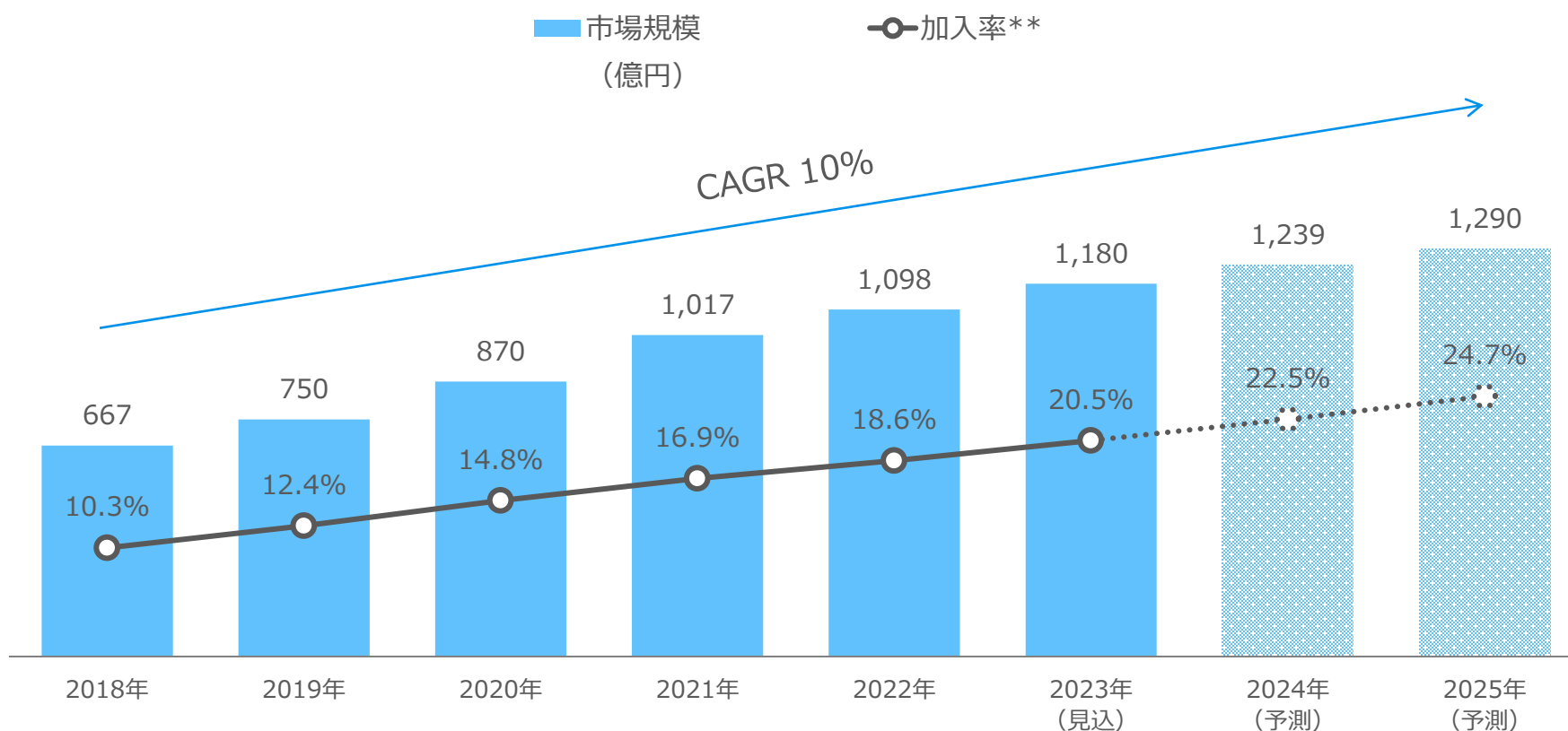


出所：矢野経済研究所「ペットビジネスマーケティング総覧2022年版」

ペット保険市場は確実に成長（1）

- ペット保険の市場規模は年平均10%拡大の見通し
- 加入率は年々高くなっているも、欧米諸国*に比べると低く、今後の市場拡大の余地は大きい
- ペットへの健康意識の高まりなど、ペット保険により高額な治療費を払う飼い主が増加すると想定

ペット保険市場規模と加入率



*約100年のペット保険の歴史があるスウェーデンでは加入率50%、約70年の歴史があるイギリスでは25%程度の加入率
**犬猫飼育頭数およびペット保険契約件数を元に算出

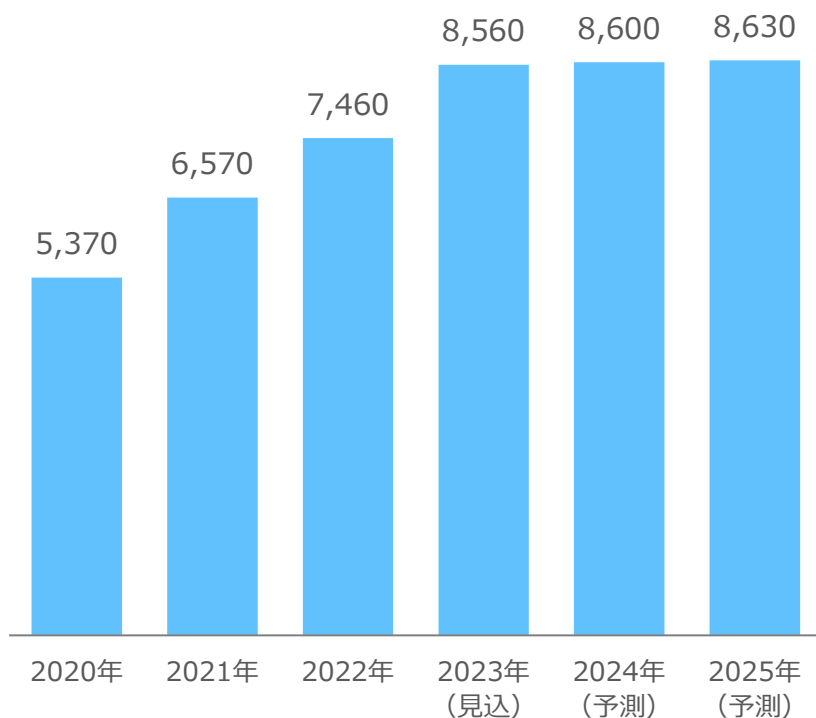
出所：富士経済「2023ペット関連市場マーケティング総覧」
矢野経済研究所「ペットビジネスマーケティング総覧2022年版」
(注) 一部企業の見直しに伴いデータを遡って修正

ペット保険市場は確実に成長（2）

- 市場の注目度は高く、登録代理店数は増加傾向
- 新規参入や大手企業による資本提携により、ペット保険各社は資金力、営業力を強化
- これまで開拓できていなかった層へのアプローチも期待され、市場は一層拡大する見込み

ペット保険市場 登録代理店数

ペット保険市場 直近のトピックス



出所：富士経済「2023ペット関連市場マーケティング総覧」

Amazon

初のペット保険

「わんにゃん安心保険」を販売

アマゾンジャパン合同会社が募集代理店として

2023年11月1日（水）より

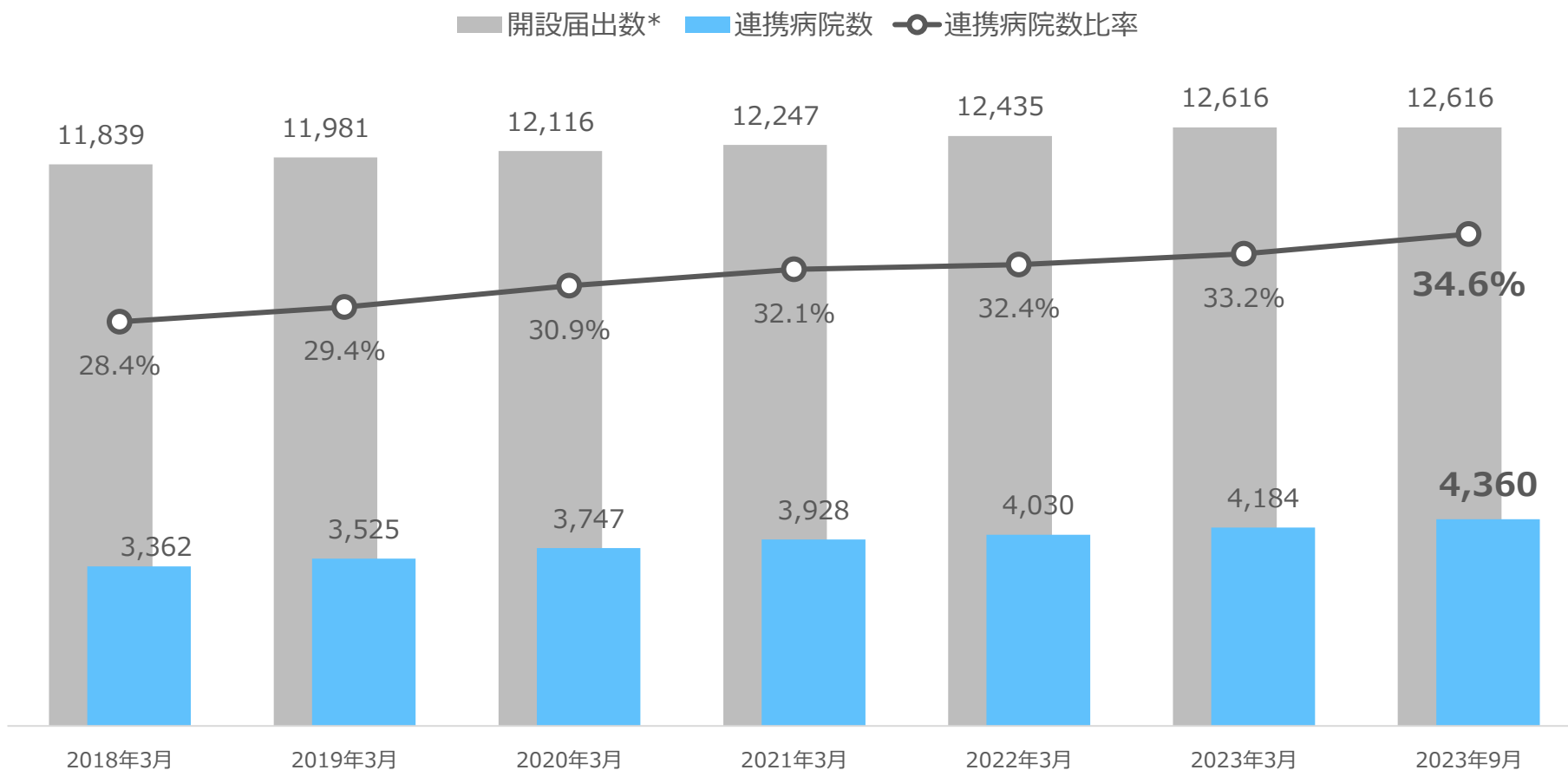
Amazon.co.jp経由で販売

Amazonが自らお客さまにお届けする初めてのペット保険

- ① 拠点の展開と連携病院数の拡大
- ② 人材確保と業務効率化
- ③ 事業の多角化と協業加速

連携病院数は、全国4,360施設に

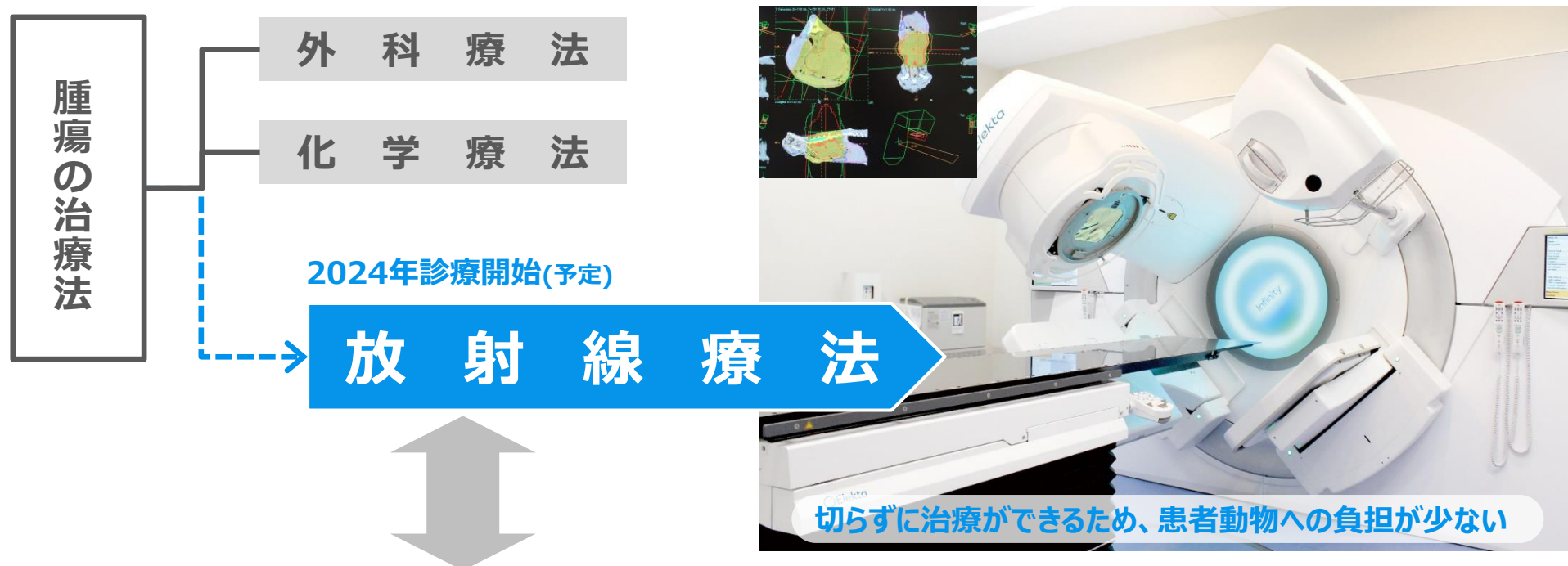
- 2023年9月の連携病院数は足元6ヶ月で+176件（うち近畿地区+133件）と着実に増加
- 連携病院数比率は34.6%に上昇



*開設届出数は農林水産省（令和4年12月末時点の小動物診療施設の件数）

大阪病院における業務領域の拡大

- 放射線治療棟と放射線治療機器の購入を実施
- 2024年診療開始予定

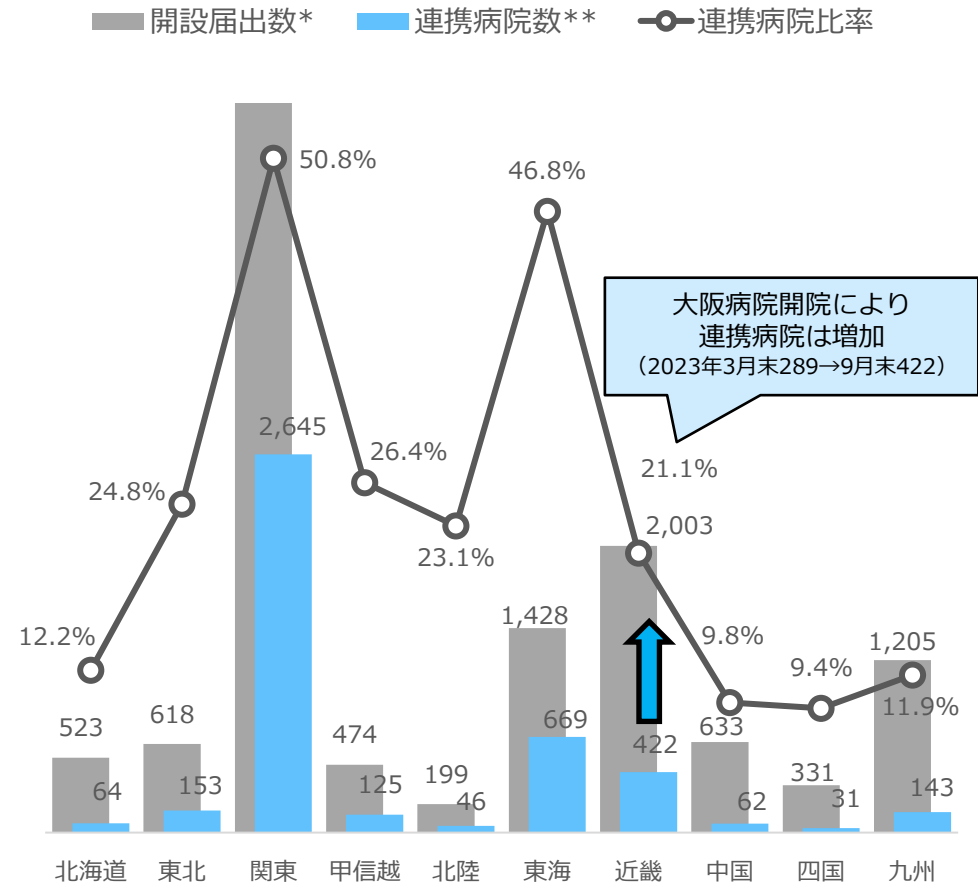
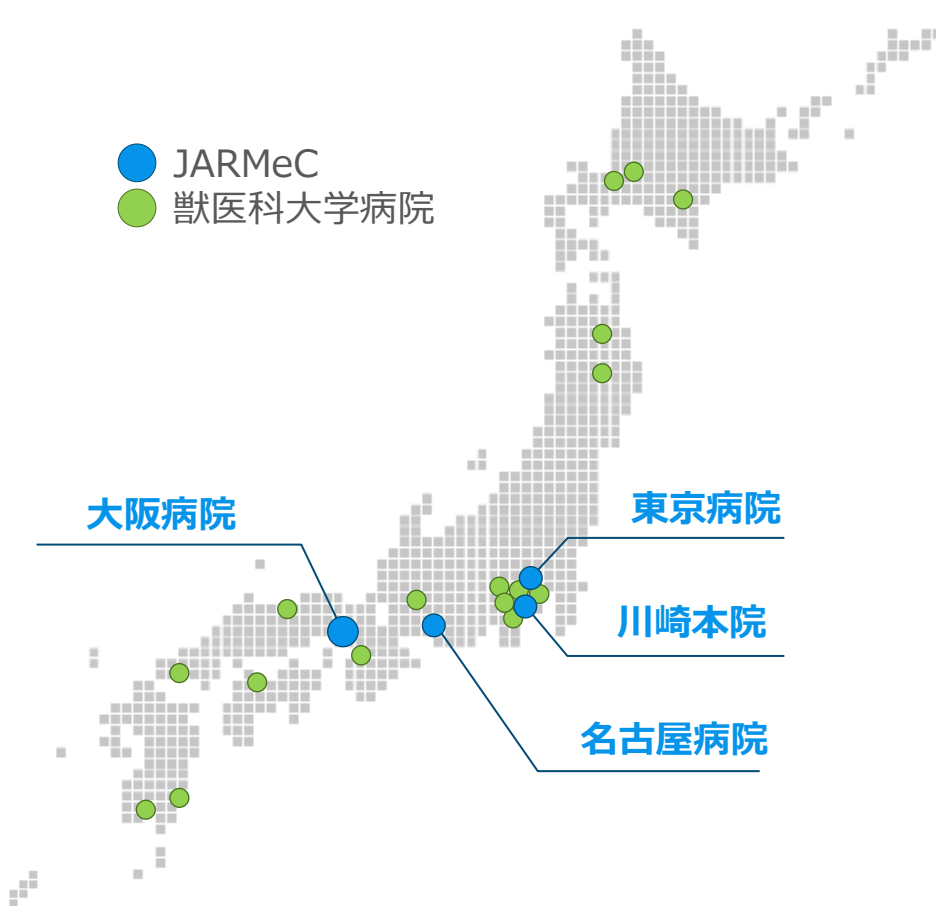


近畿地区における動物の放射線療法の行える施設は限定的

事業領域は拡大

今後の拠点展開

- 大阪病院開院により、関東、東海エリア同様に関西エリアを中心に連携病院比率の引き上げを計画
- 早期の新病院開院に向け物件の選定を実施中



*開設届出数は農林水産省（令和4年12月末時点の小動物診療施設の件数）

**連携病院数は2023年3月末時点の件数

- 拠点拡大の一環として、獣医師や動物看護師などの増員を図る計画
- 優秀な人材確保に向けて、積極的な採用活動を継続

人材確保

優秀な人材の確保

- 大学・専門学校・各種団体との関係性強化、人脈形成に尽力
- 採用特設サイトを刷新
- その他採用活動を積極的に実施



従業員の育成

- 全科ローテーション研修プログラムの実施
(農林水産大臣指定の小動物臨床研修診療施設)
- 症例検討会、各種講習会、臨床・病理検討会の活用
- 豊富で多彩な症例と手術数/専門診療科による高度医療の習得



役割の拡大

動物看護師の国家資格化 (愛玩動物看護師)

動物看護師の国家資格化による
役割の拡大、獣医師の負担軽減

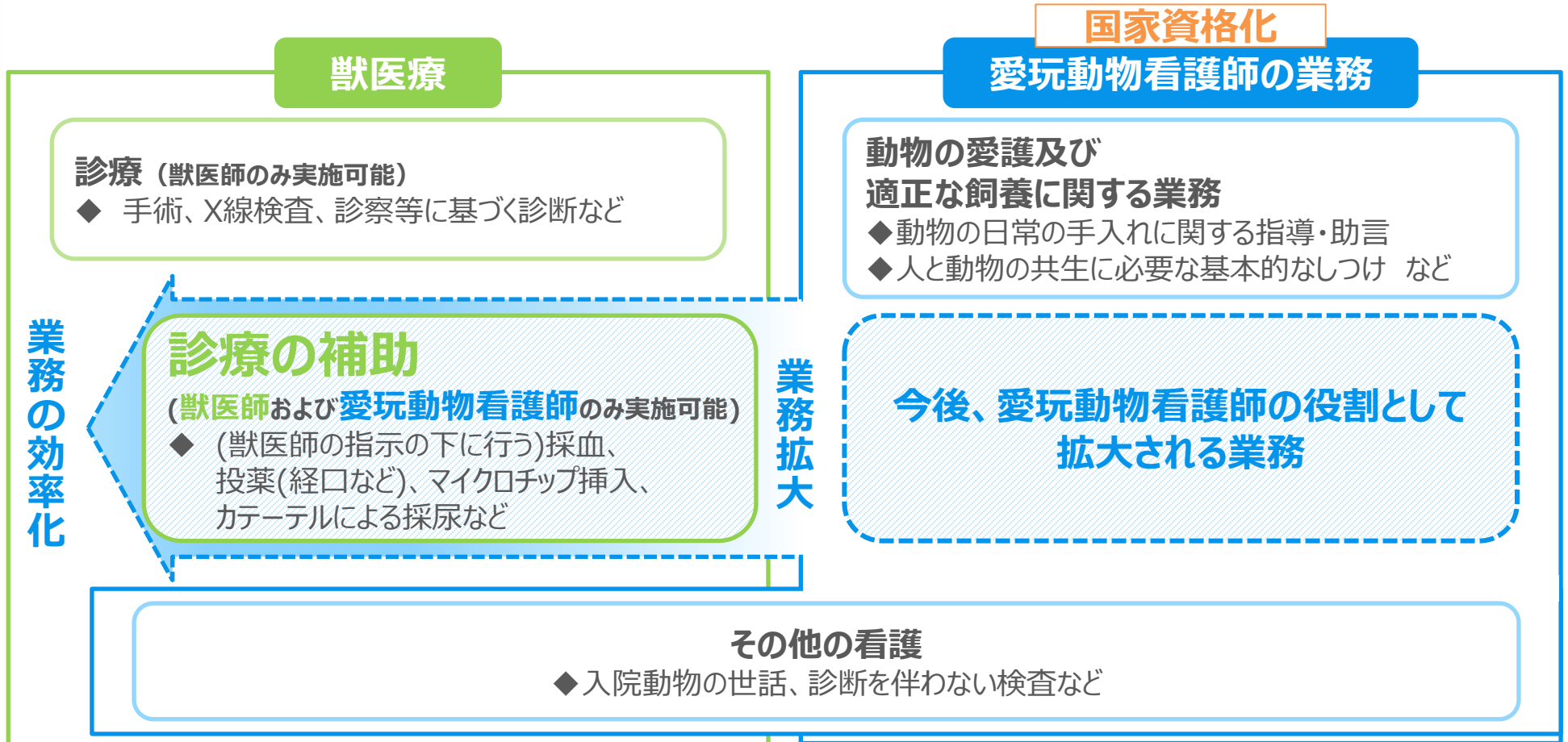
業務の効率化・生産性の向上



出所：農林水産省/環境省
新しい国家資格「愛玩動物看護師」ができました！
(パンフレット)

- 2019年6月の愛玩動物*看護師の国家資格化の決定に伴い、愛玩動物看護師の役割の拡大および獣医師の負担軽減に繋がり、業務の効率化や生産性の向上が期待される
- 第1回愛玩動物看護師国家試験は、2023年2月中旬に実施された

*獣医師法第17条に規定する飼育動物のうち、犬、猫、その他政令で定める動物（オウム科全種、カエデチョウ科全種、アトリ科全種）



出所：農林水産省/環境省「愛玩動物看護師の業務範囲（イメージ）」を元に当社作成

事業領域の拡大

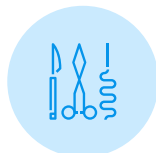
- 患者動物・飼い主に寄り添い、一次診療施設を多方面からサポート



診療外領域においても利便性を高めるシステムやサービスの開発・販売を検討



- 動物医療に関連した事業の買収を積極的に推進



医療機器



保険



ペットフード



医薬品

活動量計「プラスサイクル」を使用した取り組み



- 動物の日常の活動量を測定し、動物の「元気」を「可視化」



一次診療施設（動物病院）経由での拡販を目指し、普及促進



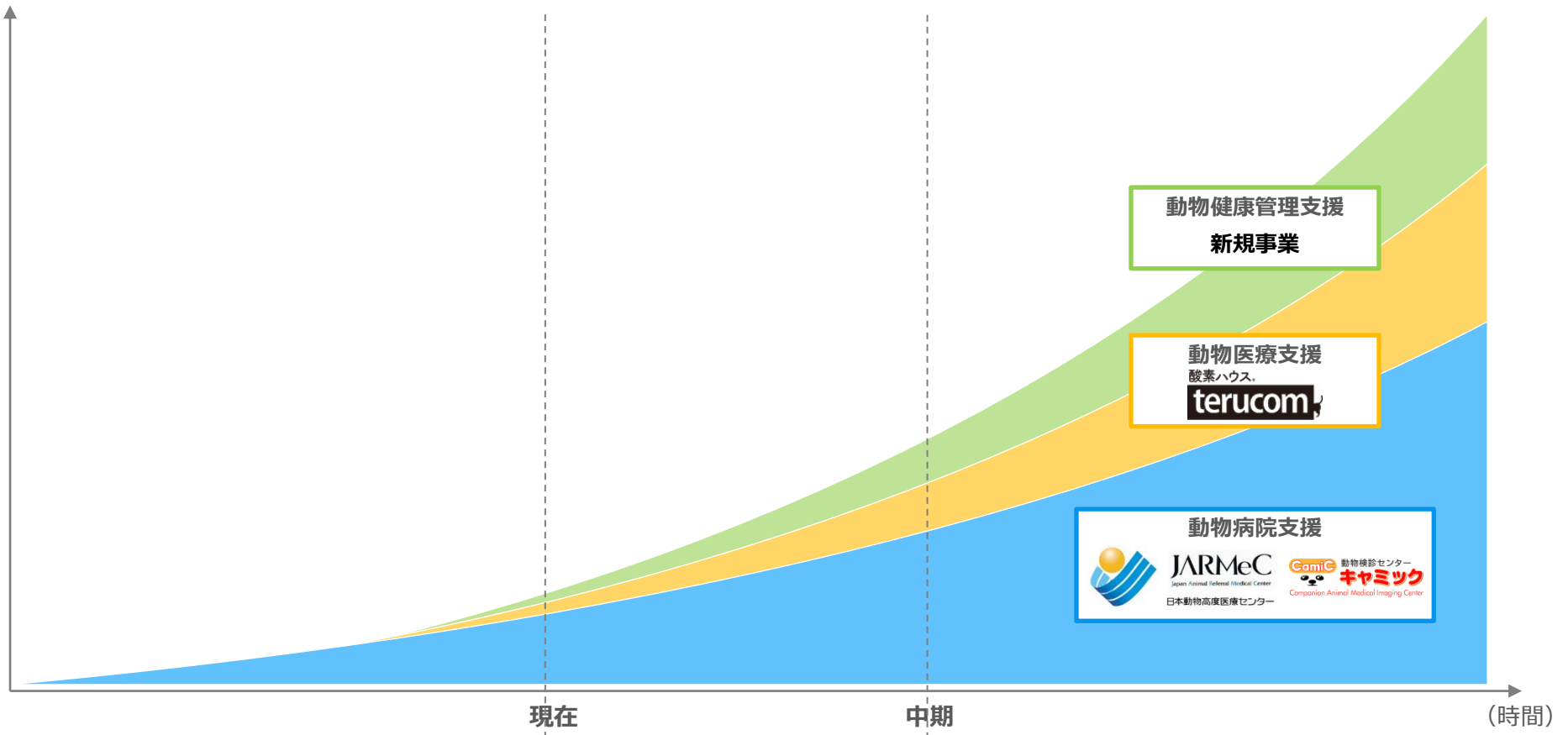
複数の企業との協業を加速

動物医療業界における総合的企業へ

中長期成長イメージ

- 短中期では、二次診療動物病院の拠点を全国的に展開しつつ、動物医療に関連する事業買収等の新規事業取り組みにも着手。一次診療施設との連携を強化し、既存事業の拡大を図る
- 長期的には、事業領域を動物の健康管理等多方面に広げ、動物医療業界における総合的企業としての地位確立を目指す

(事業規模)




appendix

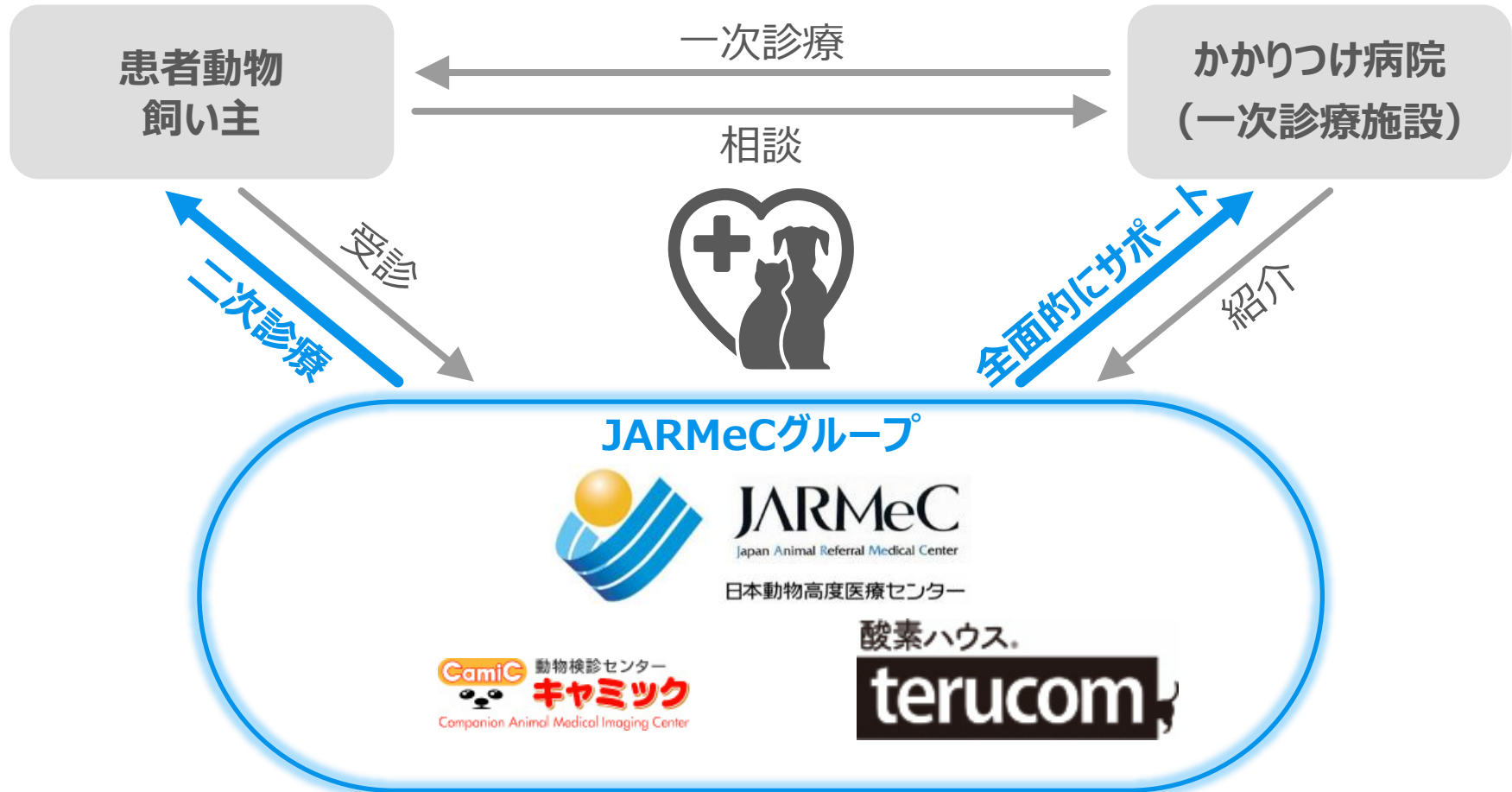


会社名	株式会社 日本動物高度医療センター
	Japan Animal Referral Medical Center : JARMeC
主要な事業内容	犬・猫向けの高度医療（二次診療）を行う動物病院
所在地	川崎本院 : 神奈川県川崎市高津区久地 2-5-8 東京病院 : 東京都足立区一ツ家 3-1-7 名古屋病院 : 愛知県名古屋市天白区鴻の巣 1-602 大阪病院 : 大阪府箕面市船場西 3-14-7
設立年月日	2005年9月26日
資本金	791百万円
代表取締役社長	平尾 秀博
従業員数	296名（非常勤37名を含む）※グループ全体（2023年9月末現在）
関連会社	株式会社 キャミック （高度医療機器を用いた動物の画像診断センター運営） テルコム株式会社 （動物用酸素濃縮器等の製造・販売・貸与）



- 
- 2005年9月 ○ 株式会社日本動物高度医療センターを設立
 - 2007年6月 ○ 川崎本院を神奈川県川崎市高津区に開業
 - 2009年3月 ○ 「小動物臨床研究診療施設」として民間で初めて農林水産大臣の指定を受ける
 - 2011年12月 ○ 名古屋病院を愛知県名古屋市天白区に開業
 - 2014年1月 ○ 株式会社キャミックを子会社化
 - 2015年3月 ○ 東京証券取引所マザーズ市場に上場（動物病院として初の上場会社）
 - 2017年6月 ○ キャミックひがし東京を東京都江戸川区に移転開業
 - 2018年1月 ○ 東京病院を東京都足立区に開業
 - 2022年2月 ○ キャミック城北を埼玉県さいたま市南区に移転開業
 - 2022年3月 ○ テルコム株式会社を子会社化
 - 2022年4月 ○ 東京証券取引所グロース市場に移行
 - 2023年6月 ○ 大阪病院を大阪府箕面市に開業

当社のビジネスモデル



- ✓ 「ペットに家族と同じように高度な医療を受けさせたい」というニーズ
- ✓ 二次診療を中心とした事業により、一次診療施設を全面的にサポート

＜見通しに関する注意事項＞

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

＜お問い合わせ先＞

株式会社日本動物高度医療センター
管理部 企画課 IR担当
044-850-1320
e-mail : ir@jarmec.jp